

## II 情報開示と信頼性の確保

# 9 排出量算定・報告・検証に関する国際標準化

いななが ひろし  
稲永 弘

### 1. はじめに

地球温暖化による影響が世界各地で猛威をふるい始めているが、国際協調による対策は遅々として進んでいない。京都議定書において温室効果ガス削減の有力な経済的手法として国際排出量取引制度がスタートしたが、各国での展開はスムーズとは言えない。排出量取引が制度として定着し有効に機能するためには、国際標準の策定とそれに沿った取組みが望まれる。本稿では代表的な国際標準規格であるISOでの温室効果ガス関連規格の発行状況とその活用について述べる。

本文中の意見に関する部分は私見である旨お断りしておく。

### 2. 混乱する排出量取引制度

現在我が国においては次の4種類の排出量取引制度が動いている。

- ① 自主参加型国内排出量取引制度
- ② 国内クレジット制度

- ③ 試行排出量取引スキーム
- ④ 東京都「総量削減義務と排出量取引制度」

各制度はそれぞれ独自に策定されているため、異なる制度間で排出枠（排出削減量）の取引ができない状況である。不具合はそればかりでなく、バウンダリー（組織範囲・活動範囲）が制度により異なるために、企業はCO<sub>2</sub>排出量を算定する際に、制度ごとにデータ収集・集計を行う必要がある。またバウンダリーが異なることでCO<sub>2</sub>排出量の帰属が複雑になり、異なる制度でのダブルカウントの可能性が高くなるとともに発見も容易でなくなる。

このような、さまざまな不具合を回避する方法として標準化という手法が従来採用されている。温室効果ガスの排出量の算定・報告についてもISO（国際標準化機構）においてISO 14064（温室効果ガス排出量算定・報告・検証規格）シリーズが開発されている。規格の種類と発行状況は、図表1のとおりである。

図表1

規格番号	規格名称	発行状況	JIS化状況
ISO 14064-1	温室効果ガス — 第1部：組織における温室効果ガスの排出量及び吸収量の定量化及び報告のための仕様並びに手引	2006-03	2010年5月 JIS発行
ISO 14064-2	温室効果ガス — 第2部：プロジェクトにおけるGHGの排出量の削減又は吸収量の増加の定量化、監視及び報告のための仕様並びに手引	2006-03	JIS化作業中
ISO 14064-3	温室効果ガス — 第3部：温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証の仕様並びに指針	2006-03	JIS化作業中
ISO 14065	温室効果ガス — 認定又は他の承認形式での使用のための温室効果ガスに関する妥当性確認および機関、検証機関に対する要求事項	2007-04	2010年度 JIS発行予定
ISO 14066	温室効果ガス — 温室効果ガス有効化審査人・検証人の力量に対する要求事項	2011年 発行予定	
ISO 14067-1	製品のカーボンフットプリント — 算定方法	2011年 発行予定	
ISO 14067-2	製品のカーボンフットプリント — 表示方法	2011年 発行予定	
ISO/TR 14069	組織のカーボンフットプリント — 活動データに関するISO 14064-1に対する技術的手引	ワーキング ドラフト段階	

### 3. 温室効果ガス関連規格のメリット

この規格を活用すれば、例えば企業（組織）がCO<sub>2</sub>の排出量を算定・報告する場合はISO14064-1に基づいて行い、正確性などを検証するために、第三者検証機関がISO14064-3に基づいて検証を行う。またその検証機関に力量が備わっているか否かを判定するために、認定機関がISO14065に基づき検証機関の評価を行う。

このような検証・認定体系に基づけば、検証の信頼性が高くなるとともに国内の企業間で排出量の比較や排出削減量の取引を行うことが容易となる。また海外においても同様の認定システムが運用されていれば、海外展開している企業にとっても、連結企業からの排出量データの収集・集計が容易となり、グローバルにカーボンをマネジメントするためのインフラとなる。

米国においては、すでに18の検証機関が14065認定を受けており、さらに18機関が申請中である。日本においてはJAB（日本適合性認定協会）が2010年の7月から14065に基づく認定業務を開始し、2010年中には複数の検証機関が認定を受けるといわれている。

ISO14064シリーズでは、ISO14067（製品のカーボンフットプリント）も開発中である。これは製品のライフサイクルの各段階（原料の採取から最終的処分）から排出されるCO<sub>2</sub>の算定・表示方法を規定している。

その他にISO/TR14069（組織のカーボンフットプリント）も開発中であり、これはサプライチェーンから排出されるCO<sub>2</sub>排出量の算定手引きが記述されている。

### 4. 排出量削減目標の達成はISO14001を活用

これらの規格に適合した仕組みを単体で構築・運用することは可能であるが、効率的・効果的な運用方法の一例を紹介する。

ISO14064の特徴は、温室効果ガスの排出量の算定・報告を規定しており、算定された情報の正確性・信頼性が確保できる。しかし企業に必要なのは最終的には、温室効果ガス排出量の継続的な削減である。ISO14064だけでは排出量の正確性・信頼性は確保できても継続的な削減の仕組みはできない。そこでISO14064をISO14001（環境マネジメントシステム国際規格）と組み合わせると効果的である。ISO14001は継続的な改善をするマネジメントシステムであり、環境に関する目標管理制度と言える。ISO14064で特定された正確な排出量に関して、削減目標を設定し実施計画を策定する。つまりISO14001の「目的・目標及び実施計画」に組み込むことで排出量の削減がPDCAサイクルのもとで効果的に実施できることになる。

以上